

科目名	宗教と人間（親鸞と現代） B					単位	2.0
担当教員	伊東 恵深						
授業形態	講義	開講期間	前期	配当年次	1	授業番号	3216

●授業のテーマ  
親鸞の生涯と教え

●到達目標

「親鸞の生涯と教え」を学ぶことを通して、人間として生きることの意味、現代を生きる私たちが抱えている問題、また同朋大学で学ぶ意義について考えられるようになる。

●学習内容(授業概要)

同朋大学は、親鸞聖人（1173-1262）の「同朋（どうぼう）」精神と聖徳太子（574-622）の「和敬（わきょう）」の精神を「建学の理念」とする大学である。

その親鸞聖人の生涯と教えについて、まずは基本的な知識を習得する。そのことを通して、「人間とは何か」「人として生きる（人生）とはどういうことか」ということについて考えていきたい。

大学に入って、これからどのような学びを進めるにしても、自分自身を問うということは根本的な課題である。親鸞聖人の生涯と教えを学ぶことを通して、人間存在について、また私自身の生き方・あり方について、主体的に考える力を養いたいと思う。

●学習内容(授業計画)

≪前期≫

1. 授業のガイダンス
2. 親鸞の生涯と教えに「何を」学ぶのか
3. 親鸞の生涯①—誕生と出家—
4. 親鸞の生涯②—比叡山での修行と六角堂参籠—
5. 親鸞の生涯③—法然との出会い—
6. 親鸞の生涯④—流罪と越後での生活—
7. 親鸞の生涯⑤—関東での生活—
8. 親鸞の生涯⑥—帰洛とその晩年—
9. 親鸞の教え①—凡夫、悪人とは何か—
10. 親鸞の教え②—師教との出会いとは何か—
11. 親鸞の教え③—同朋精神とは何か—
12. 親鸞の教え④—本願、他力とは何か—
13. 親鸞の教え⑤—浄土真宗の救いとは何か—
14. 親鸞と現代—現代の諸問題を通して—
15. 総括（まとめ・テスト）

●準備学習・事後学習の内容

「準備学習」…特に指示しない限り準備学習は必要ないが、不明な点があれば事前に調べてくること。  
「事後学習」…授業で学んだ内容について、板書ノートや配布資料を読み返して復習しておくこと。

●成績評価方法・基準

①平常点（出席・受講態度など）40%、②小レポート・感想文（授業時に数回）30%、③期末試験（筆記またはレポート）30%

●テキスト（必携）

特になし（板書と配布資料によって行う）

●参考文献／その他

授業中に随時紹介する。

●履修上の注意

1回生時の必修科目なので、休まず出席すること。出席・受講態度を重視する。  
講義中の私語、携帯電話等の使用は厳禁。複数回注意を受けた場合は、欠席扱いとする。